

令和2年11月版 土木工事標準積算基準書 (改定・訂正)

令和2年11月1日適用

種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後												
<p>工事編参考資料 p16</p> <p>第4章 工期の算定</p> <p>(2) 工期の設定</p> <p>⑥ 工期設定の条件明示</p>	<p>② 施工に必要な実日数</p> <p>施工に必要な実日数は、「土木工事標準積算基準書 第1編 総則 第14章 日当り作業量」に示す歩掛の作業日当り標準作業量から当該工事の数量を施工するのに必要な日数を算出する。パーティ数は基本1パーティで設定することとするが、工事全体の施工の効率性や完成時期などの外的要因も考慮の上、パーティ数を変更してよい。</p> <p>③ 不稼働日 (雨休率)</p> <p>休日と降雨降雪日の年間の発生率を設定する。休日は、土日、祝日、年末年始休暇【6日】及び夏期休暇【3日】とする。降雨降雪日は、1日の降雨・降雪量雨が10mm以上の日とし、過去5カ年の気象庁のデータより年間の平均発生日数を算出。休日と降雨降雪日の年間の日数を算出し、雨休率を設定する。</p> <p>埼玉県における年間の不稼働日数 (雨天のデータは「埼玉県気象月報」(熊谷地方気象台)による。)</p> <table border="0"> <tr> <td>雨天又は休日</td> <td>152日</td> <td>(稼働日数=365日-152日=213日)</td> </tr> <tr> <td>休日のみ</td> <td>127日</td> <td>(稼働日数=365日-127日=238日)</td> </tr> </table> <p>雨休率 0.71 (雨休率=雨天又は休日÷稼働日数=152日÷213日=0.71)</p> <p>④ その他の不稼働日</p> <p>休日及び降雨・降雪日以外の不稼働日数には、次のことを考慮する。</p> <p>ア 工事の性格の考慮</p> <p>工事を行うにあたっては、その工事特有の条件がある。その条件によっては、その条件を考慮した工期設定を行う必要があり、その条件に伴う日数を必要に応じて加算する。</p> <p>イ 地域の実情の考慮</p> <p>当該工事を行う地域によっては、何らかの理由(例：地域の祭りなど)により施工できない期間等がある場合は、それに伴う日数を必要に応じて加算する。</p> <p>ウ その他</p> <p>上記ア、イ、以外の事情がある場合は、適切に見込むこと。</p> <p>⑤ 後片付け期間</p> <p>後片付け期間は、工種区分毎に大きな差が見受けられないことから、20日を最低限必要な日数とし、工事規模や地域の状況に応じて設定※するものとする。</p> <p>※通年維持工事は除く</p> <p>⑥ 工期設定の条件明示</p> <p>設定された工期に特記事項がある場合には、特記仕様書にその条件を明示する。</p> <p>例・工事の性格、地域の実情、自然条件等で日数を見込んだ場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他、特記すべき事項がある場合</li> </ul> <p>(3) 【施工に必要な実日数】+【不稼働日】の計算例</p> <p>掘削 2,100m<sup>3</sup> (1日当り作業量 300 m<sup>3</sup>とした場合)</p> <p>施工に必要な実日数=2,100m<sup>3</sup>÷300m<sup>3</sup>=7日                  不稼働日を考慮した実日数 =7日×(年間日数365日÷年間稼働日数214日)                  ≒12日</p> <p>※工期の算定の際にはさらに「準備期間及び後片付け期間」を考慮すること。</p>	雨天又は休日	152日	(稼働日数=365日-152日=213日)	休日のみ	127日	(稼働日数=365日-127日=238日)	<p><b>赤書き箇所：訂正</b></p> <p>② 施工に必要な実日数</p> <p>施工に必要な実日数は、「土木工事標準積算基準書 第1編 総則 第14章 日当り作業量」に示す歩掛の作業日当り標準作業量から当該工事の数量を施工するのに必要な日数を算出する。パーティ数は基本1パーティで設定することとするが、工事全体の施工の効率性や完成時期などの外的要因も考慮の上、パーティ数を変更してよい。</p> <p>③ 不稼働日 (雨休率)</p> <p>休日と降雨降雪日の年間の発生率を設定する。休日は、土日、祝日、年末年始休暇【6日】及び夏期休暇【3日】とする。降雨降雪日は、1日の降雨・降雪量雨が10mm以上の日とし、過去5カ年の気象庁のデータより年間の平均発生日数を算出。休日と降雨降雪日の年間の日数を算出し、雨休率を設定する。</p> <p>埼玉県における年間の不稼働日数 (雨天のデータは「埼玉県気象月報」(熊谷地方気象台)による。)</p> <table border="0"> <tr> <td>雨天又は休日</td> <td>152日</td> <td>(稼働日数=365日-152日=213日)</td> </tr> <tr> <td>休日のみ</td> <td>127日</td> <td>(稼働日数=365日-127日=238日)</td> </tr> </table> <p>雨休率 0.71 (雨休率=雨天又は休日÷稼働日数=152日÷213日=0.71)</p> <p>④ その他の不稼働日</p> <p>休日及び降雨・降雪日以外の不稼働日数には、次のことを考慮する。</p> <p>ア 工事の性格の考慮</p> <p>工事を行うにあたっては、その工事特有の条件がある。その条件によっては、その条件を考慮した工期設定を行う必要があり、その条件に伴う日数を必要に応じて加算する。</p> <p>イ 地域の実情の考慮</p> <p>当該工事を行う地域によっては、何らかの理由(例：地域の祭りなど)により施工できない期間等がある場合は、それに伴う日数を必要に応じて加算する。</p> <p>ウ その他</p> <p>上記ア、イ、以外の事情がある場合は、適切に見込むこと。</p> <p>⑤ 後片付け期間</p> <p>後片付け期間は、工種区分毎に大きな差が見受けられないことから、20日を最低限必要な日数とし、工事規模や地域の状況に応じて設定※するものとする。</p> <p>※通年維持工事は除く</p> <p>⑥ 工期設定の条件明示</p> <p>設定された工期に特記事項がある場合には、特記仕様書にその条件を明示する。</p> <p>例・工事の性格、地域の実情、自然条件等で日数を見込んだ場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他、特記すべき事項がある場合</li> </ul> <p>(3) 【施工に必要な実日数】+【不稼働日】の計算例</p> <p>掘削 2,100m<sup>3</sup> (1日当り作業量 300 m<sup>3</sup>とした場合)</p> <p>施工に必要な実日数=2,100m<sup>3</sup>÷300m<sup>3</sup>=7日                  不稼働日を考慮した実日数 =7日×(年間日数365日÷年間稼働日数213日)                  ≒12日</p> <p>※工期の算定の際にはさらに「準備期間及び後片付け期間」を考慮すること。</p>	雨天又は休日	152日	(稼働日数=365日-152日=213日)	休日のみ	127日	(稼働日数=365日-127日=238日)
雨天又は休日	152日	(稼働日数=365日-152日=213日)												
休日のみ	127日	(稼働日数=365日-127日=238日)												
雨天又は休日	152日	(稼働日数=365日-152日=213日)												
休日のみ	127日	(稼働日数=365日-127日=238日)												